

平成27年11月13日
(2015年)

保護者の皆様へ

吹田市立山田中学校
校長 三代 周治

平成27年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「平成27年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の分析

【国語】

《概要》

A・B問題とも平均正答率は全国値を上回っている。「『知識』に関する問題」「『知識の活用』に関する問題」とも正答率は良好であるが、「目的に応じて資料を読み、考えを話す」ことに課題が見られた。

◎国語A（「知識」に関する問題）

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」の全領域において全国値を上回っている。

◎国語B（「知識の活用」に関する問題）

「書くこと」「読むこと」「言語事項」の領域において全国値を上回っているが、「話すこと・聞くこと」ことに課題があり、スピーチなど発表の場面やグループワークの機会を増やしていく必要もある。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

話すこと・聞くこと

・「効果的な資料を作成し、活用して話す」ことは全国値を上回っている。

書くこと

・「目的に応じて文章を要約する」ことは全国値を上回っている。
・「複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く」ことに課題がある。

読むこと

・「文章について説明したのとして適切なものを選択する」という表現の特徴を捉えることは全国平均を上回った。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

・「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」ことや「単語の種別について理解する」ことに一部課題がある。

●国語科における成果と今後の改善点について

今回の調査結果から、生徒の日常の学習成果と努力は確認することが出来る。特に語句に関しては、毎日の積み重ねが成果として現れている。しかし、「話すこと・聞くこと」の観点にやや課題が見られる。この観点の課題を解決するために、今後の授業の中で、資料などを読み取って、提示の仕方を工夫し発表する場面を設定し、「話す・聞く」力の向上を目指していく。

【 数 学 】

《概要》

A・B問題ともに平均正答率は全国値を上回っている。どの領域も全国値と比べ正答率は高いが「図形」の領域で全国値を下回るものがあった。特に空間図形に課題が見られた。

◎数学A（『知識』に関する問題）

「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」全ての領域において全国値を上回っている。特に計算することに関しては、全国値を大きく上回っている。

◎数学B（『活用』に関する問題）

「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のすべての領域において、全国値を上回っている。特に図形の証明問題では全国値を大きく上回っている。しかし、数学的な表現を用いて説明する問題の正答率が低かった。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と式

・計算することに関して成果が出ている。

図形

・空間における図形問題に課題がある。

関数

・具体的な事象と結びつけることに課題がある。

資料の活用

・表から答えを導き出すことに成果が出ている。

●数学科における成果と今後の改善点

習熟度別指導を含む、少人数指導等の成果がみられ、特に計算力に関しては今後も同様の成果を得られるように指導を行っていきたい。しかし、数学的な表現を用いて説明することや図形を空間で考えることに課題がある。事柄の意味を理解し、順序立てて説明できるように指導を工夫する必要がある。また、図形に関しては、空間における直線や平面の位置関係を理解できるように身近な立体を観察するなど、理解力の向上を目指していく。

【 理 科 】

《概要》

平均正答率は全国値を上回っている。

◎主として「知識」に関する問題、主として「活用」に関する問題ともに、全国値を上回っているが、「知識」に関する問題の方が、より大きく上回っている。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

物理的領域

全国値を上回っている。特にオームの法則の計算や実験方法の検討に関する問題で、大きく上回っている。

化学的領域

全国値を上回っている。特に水上置換法では二酸化炭素の体積が正確に量れない理由を答える記述式の問題で、大きく上回っている。

生物的領域

全国値を上回っている。あえて課題をあげるなら、見いだした問題をもとに適切な課題を設定し考察する問題において、大阪値は上回っているものの、わずかに全国値を下回っている。

地学的領域

全国値を上回っている。水の状態変化と関連付けて、雲の成因を説明する記述式の問題では、全国的に正答率が低く、本校においても値は低かったが、全国値を大きく上回った。

●理科における成果と今後の改善点

今回の調査結果から、本校生徒の日常の学習成果と努力を確認することができる。あえて課題をあげるなら、与えられたデータを分析・考察し、説明する事に、やや課題がみられる。この課題解決のため、日常の授業において、単に知識の習得に終わることのないよう、内容を十分考察する時間をとったり、実験・観察等において、実験班など小グループでの結果の分析・考察および、その発表を充実させ、考察力・説明力の向上を目指していく。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【自分自身のことについて】

- ・「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」については 全国値を上回っている。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」については全国値を上回っている。
- ・「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」「自分には良いところがあると思いますか」については全国値を大きく上回っている。

【家庭生活について】

- ・「普段(月~金)、1日2時間以上、『テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする』、『テレビゲームをする』、『携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする』」については全国値を大きく下回っている。
- ・「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか」については全国値を上回っている。

【学校生活・学習について】

- ・「学校の規則を守っていますか」については 全国値を上回っている。
- ・「学校に行くのは楽しいですか」については全国値を上回っている。
- ・「学校でみんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」については全国値を上回っている。
- ・「学校の授業以外に、普段(月~金)1日当たり2時間以上勉強をする」については全国値を大きく上回っている。
- ・「学習塾(家庭教師を含む)で勉強している」については全国値を大きく上回っている。
- ・「学校の授業以外に、普段(月~金)全く読書をしない」「読書は好きですか」については全国値を大きく下回っている。

3. 今後の取り組みについて

結果を踏まえ、本校では今後も、授業方法の工夫改善に努めるとともに、習熟度別少人数指導を充実させ、個に応じたきめ細かな指導を推進していきます。また、職場体験をはじめとするキャリア教育や、子どもたちが将来の夢を育む進路指導を推進していきます。ご家庭でも、基本的な生活習慣や家庭学習時間の確立など、生徒の自律と幅広い学習の機会をつくるため、ご協力をお願い致します。